

勉学の旗 (高須中学校だより)

平成29年12月 5日号 高須中学校長 山口和久



今回は、平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組についての特集です。(HPIにも掲載)

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

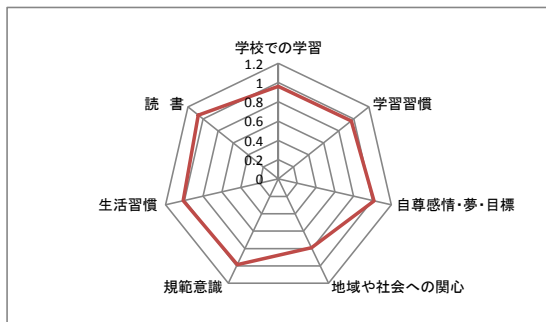
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	文章の要旨を捉える内容を理解する問いは全国平均を上回っているが、言語に関する問題では課題がある。語句について理解することや、漢字を正しく書く学習が必要である。	下回っている
国語B	資料を活用して話したり、話の構成や展開などに注意して聞く能力は全国平均を上回っている。記述式問題では表現の仕方について自分の考えを書く力、わかりやすく書く力をつける必要がある。	下回っている
数学A	分数の乗法の計算をする問題や二元一次方程式正答率が高く、学習の成果が出ている。図形に関しての正答率が低く、円柱の体積、扇形の弧の長さなど、1年生で学習した内容の復習が必要である。	下回っている
数学B	資料を活用して傾向を的確に捉える問題は、全国平均を上回り、復習した成果が出ている。2つの図形の関係を回転運動に着目して捉える問題についての学習が必要である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・読書好きな生徒が多く全国平均を上回っている。
- ・将来の夢や希望をもっている生徒や人の役に立つ人間になりたいと思うは全国と同じくらいである。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけていかなければならない。
- ・地域の行事への参加率がかなり低いことが課題である。
- ・3年生になって平日60分以上ゲームをする生徒は減ってきているが、それでも半数以上は、行っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・授業において、めあてとまとめ・振り返りを示したり、話し合い活動を取り入れたりして授業改善に取り組んでいるが、今後も学校全体で取組を推進して授業力の向上を図る。
- ・各教科の授業の中で、自分の意見を書いたり説明したりする時間を積極的に多く取り入れ、「書く」、「説明する」ことの習慣化を図る。
- ・朝自習や裁量の時間を活用し、計算や漢字、英単語などの基礎的な学力の向上を図っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習において、3時間以上長時間学習する生徒は多いが、それ以外の生徒の取組時間が平均より少ないことが課題である。自学ノートの提出率や宿題をする率は昨年度より上がってきている。今後は、提出できない生徒の手立てを講じ、更なる向上を図る。
- ・定期的な生活アンケートを実施して、生徒の生活習慣を把握した上で、懇談会や通信などを通じて、生徒・保護者に家庭学習の大切さを啓発していく。また、将来の夢や希望を持っている生徒が多く、家の人と将来について話す生徒が多いことから、将来の夢の実現に向けて主体的に学習に取り組むように図っていく。